



新宿区立新宿養護学校

ひまわり

令和7年 2月号



↑カラー版はこちらから



地域の親しむ学校（歴史に触れて）

校長 門脇 伸也

3月4日付けの報道により、大船渡市（東北）の森林火災は7日目を迎えて市の一割が焼失し、地域住民の避難生活の様子が伝えられました。東日本大震災から14年、復興した地域に再び訪れた災害に、心よりお見舞い申し上げます。

さて、3月4日、今年度最後の校外学習である中学部遠足がありました。品川プリンスホテルのコンビニでお買い物（買い物体験）をし、ボーリングを楽しんだ後、38階のレストランで昼食をとり、帰校というスケジュールでした。一人一人の生徒の表情は、学校内で見せる表情以上に輝かしい笑顔で溢れていました。往復の移動手段にはスクールバスや医療的ケアの専用通学車両を利用しましたが、帰路、スクールバスが新宿区内に入り見知った光景となると、喜びの声を出す生徒がいるなど、学校到着まで楽しい時間を過ごすことが出来ました。

ところで、掲載しました写真は、新宿中央公園の中央付近にある写真創業の地の標柱です。東京都庁第一庁舎に向かい合う位置の小樹林の中に標柱は建っています。この標柱には次のことが書かれています。

「この地は、明治35年（1902）に小西本店（現・コニカミノルタ）が写真感光材料国産化を図り、研究所と工場（六桜社）を建設し、製造を始めましたところである。同社はさらにカメラの製造を始め、写真フィルムの国産化にも成功した。その後、昭和38年（1963）、新宿副都心建設事業により、八王子・日野へ移転した。」

平成6年4月19日（1994）に西新宿四丁目4-20の地（現在の新宿養護学校）で、本校の校舎の起工式が行われました。この校舎の地は、コニカの社員寮として使用されていた建物を改修したもので、今でも所々にその面影が残っています。自動ドアを通過して玄関を入ってすぐの円柱形のエントランスは、当時の社員寮の玄関だったのでしょうか。2年間の改修工事により、平成8年3月28日（1996）に新校舎落成式が執り行われています。障害のある子どもたちの学校がこの地に建設されることに当時は反対する住民の方もいたと、当時を知る前町会長さんからお話を伺ったことがあります。前町会長さん等の方々のおかげにより、地域住民にとって親しみやすい学校となるようにと、区と共に意見聴収の会を開き、開校当初には、校庭の端に滑り台、ブランコを設置されました。本校の児童・生徒の下校後、地域の子どもたちが遊具で安心して遊べる場を提供することにし、敷地の周囲に塀を作らない新しいスタイルの学校が誕生しました。現在でも滑り台、ブランコの設置されていた跡が校庭に残っています。この様子がわかる開校当時の模型が校長室にあるので、御覧になりたい方は、来校時にお立ち寄りください。

また、過去この学校から優秀な教員が輩出され、現在の都立光明学園で活躍されていました。このことは昨年12月に、日本の肢体不自由教育創始90周年記念行事が光明学園にて開催された時に、光明学園の校長式辞で、肢体不自由教育を支える人々の歴史として語られていた中で知りました。



現在在籍している児童・生徒が、本校を大切に思っていることは何よりもありがたいことです。新宿養護学校は、前進である「ひまわり学級」が昭和35年12月5日に新宿区立鶴巻小学校に開設（1学級、12名）から始まり、昭和53年3月8日に東京都教育委員会より区立養護学校設立認可された時から数えて47年目を迎えます。そして、今月3月21日には小学部2名、中学部4名の児童・生徒を卒業させていきます。暖かな春の日の卒業式を迎えたいものです。

最後になりますが、寒暖のある季節を迎えます。皆様ご自愛ください。

連合作品展

1月24日から2月5日まで、新宿中央公園内のエコギャラリーで連合作品展が行われました。

こすもすグループは、運動会の衣装として着用した、Tシャツの絞り染めやマーブリングの団扇、フルイドアート作品を展示しました。低学年つくし・ばらグループは、各々がイメージを膨らませ、袋に目や鼻を付けた作品や、紙粘土の2点の立体作品を展示しました。高学年つくし・すみれグループは、スチレン版画と紙粘土の作品を展示しました。中学部は、葛飾北斎の「富獄三十六景」をテーマに描いた平面作品と、埴輪の立体作品の2点を展覧しました。



また、今年度も直接見学することができ、自分たちの作品はもちろん、新宿区内の支援学級の児童・生徒の作品も見学できる良い機会となりました。自分の好きな生き物の作品を見つけたり、光沢のある作品を見て目を輝かせたり、それぞれが楽しんで鑑賞することができました。

ボッチャ体験会

2月7日、日本ボッチャ協会から新井大基先生をお招きして、ボッチャ体験会を行いました。新井先生はパラリンピックで日本代表コーチとして活躍された先生です。児童・生徒一人一人が投げる力の強弱やねらう場所など丁寧なアドバイスをもらい、投げるたびに上達していきました。狙った場所に思い通りに投げる事ができた時には、チーム関係なく、歓声が上がりました。



芸術鑑賞教室

2月14日に「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」として「PAN NOTE MAGIC」による「スチールパン・オーケストラ」の演奏を鑑賞しました。スチールパンは、ドラム缶から作られた打楽器で、美しさと陽気さを兼ね備えた音色が特徴です。今回は、ラテン音楽をはじめ、ジブリ、ディズニー、クラシック、校歌など幅広いジャンルの曲を披露していただきました。特に、プログラムの最後の曲では、ラテンのリズムによって、子どもたちがタオルやハンカチを振り、全身でスチールパンの魅力を感じていました。



→PAN NOTE MAGIC の Youtube はコチラ

3学期の研究について

2月12日、一般社団法人障害児・者 QOL サポートラボ CIAO の田中顕一先生をお招きし、「肢体不自由児の実態把握と学習支援の考え方」をテーマにして講演いただきました。本校では、昨年11月にも水泳指導研修で御指導いただいています。今回は具体的事例を交えながら、学習課題の設定とその考え方を教えていただきました。

児童・生徒の学びと成長に寄り添いながら、今後の指導へと生かしてまいります。

